

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>1 医療費現物給付への取組について (20分)</p> <p>鶴ヶ島市では、こども医療費のほか、平成28年1月から重度心身障害者医療費、ひとり親家庭の医療費扶助も、埼玉県国民健康保険団体連合会等に委託する形で、窓口払いをなくす現物給付をしております。</p> <p>厚生労働省の「子どもの医療制度の在り方等に関する検討会」では、「償還方式から現物給付方式に変更」(自己負担は無料)した自治体では、同じ県の他自治体に比べて医療費全体の伸びが6%超との報告がなされており、鶴ヶ島市においても子どもの数は減少傾向ですが、こども医療費への負担は増えており、また、ひとり親家庭への18歳までの医療費扶助は、現物給付の結果大幅に増え、9月議会で約1500万円の補正予算を組む状況に至っています。</p> <p>公明党鶴ヶ島市議団として視察に伺った岡山県総社市では、子育て支援に力を入れており、その中でも、年々増大する医療費扶助の負担についても市民を交えて真摯に取り組まれていました。その中身は、子ども医療費の負担金額に目標を定めて、目標を下回った分は、インセンティブとして他の子育て支援の予算に使うこと、そして、学校での怪我等への保険の利用を高等学校まで担当職員らが行って訴えるというものでした。</p> <p>(1) 鶴ヶ島市での現物給付実施後の医療費扶助の状況について ア こども医療費について イ 重度心身障害者医療費について ウ ひとり親家庭の医療費について</p> <p>(2) 医療機関への所謂コンビニ受診と言われる状況について</p> <p>(3) 小中学校での部活での怪我等に対する保険の利用状況について</p> <p>(4) ひとり親家庭の高校生の部活での怪我等への保険の利用状況について</p> <p>(5) それぞれの医療費扶助に関する適正な運用への取組について</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>
<p>2 高齢者インフルエンザ予防接種について (10分)</p> <p>インフルエンザワクチンは、4種類(A型2種類、B型2種類)混合ワクチンとなって、ワクチンの価格も高くなりました。鶴ヶ島市では、今年度の高齢者のインフルエンザワクチンの接種助成の個人負担額は1,500円となっております。</p> <p>ところが、医師会を同じくする坂戸市では、1,000円のままで、助成実施医療機関は、鶴ヶ島市27、坂戸市48、日高市1ですが、日高市でも個人負担は1,000円となっております。</p>	<p>市長</p>

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>(1) 助成金額決定の経緯について</p> <p>(2) 近隣の状況について</p> <p>(3) 昨年度と今年度の坂戸市と鶴ヶ島市の受診状況について</p> <p>3 高次脳機能障害について (15分)</p> <p>平成16年12月議会で高次脳機能障害について質問を致しました。当時は、モデル事業が始まったところでしたが、現在、高次脳機能障害は器質性精神障害として、他の精神障害と同様、平成18年度から障害者自立支援法の支援の対象になっており、高次脳機能障害診断基準によって進行する疾患の場合は認知症、進行しない場には高次脳機能障害となるなど位置づけも整備されてきました。</p> <p>「高次脳機能障害」が精神障害に含まれることが市町村の障害者計画等に反映していないために、診断できる医療機関が少ないことや具体的な訓練や社会復帰支援などが十分行われていない現状がなかなか改善されないとの指摘もあります。</p> <p>(1) 高次脳機能障害の市での位置づけと計画への反映について</p> <p>(2) 高次脳機能障害の診断ができる医療機関の状況について</p> <p>(3) 身体、精神両方の障害認定の状況と相談業務、訓練や社会復帰支援、介護への市の取組の状況について</p>	<p>市長</p>
<p>4 公共施設等総合管理計画について (15分)</p> <p>鶴ヶ島市では、平成26年に公共施設等利用計画を策定し、その後公園についても長寿命化計画を策定し、また、計画には含まれない形で、むこう10年程度の公共施設の延命や修理について取り組まれ始めております。</p> <p>2016年度末までに策定が求められている公共施設等総合管理計画について既に本年4月の時点で県内28の市町が策定をしており、坂戸市、日高市も策定済みです。</p> <p>また、2020年度までに個別施設計画策定が求められ、2017年度まで当市では策定済みの固定資産台帳整備を含む統一的な基準による地方公会計の整備により把握される資産老朽化比率等の指標のほか、住民1人あたりの維持管理に要する経費など、公共施設に関する情報を「見える化」していくことが求められ、公共施設等総合管理基金設置も求められております。</p> <p>人口減少は避けられず、都市の規模自体は、集約が難しいなかで都市の中がスカスカになっていく状況を「スポンジ化」と称するとらえかたがあります。空き家の活用、民間スペースの活用などを通して都市をたたむと</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>いう発想も計画策定に際して大切だと考えます。</p> <p>(1) 鶴ヶ島市の公共施設等総合管理計画の取組状況について</p> <p>(2) 個別施設計画の策定に着手している団体が24団体ですが、当市の状況について</p> <p>(3) 見える化への取組について</p> <p>(4) 人口減少は避けられず、都市の規模自体は、集約が難しいなかで「スポンジ化」する都市へどう向き合っていくのか市の見解について</p>	